

1. 科目名 (単位数)	社会心理学特論 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP5230
2. 授業担当教員	後藤 進吾		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし	履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	臨床心理学と社会心理学の接点としての臨床社会心理学の観点から個々人の行動レベルの問題、対人関係や対人行動、集団の行動、不特定多数の人々の間に発生する行動現象、コミュニケーションの問題などについて理解を深め考察する。		
8. 学習目標	次の事項を理解する。 ①社会心理学と臨床心理学のインターフェイスについて学ぶ。 ②臨床社会心理学の可能性に対する理解を深める		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	毎回、講義で扱う教科書の各章に関して、臨床心理士を志すものとして考える問題意識や社会的な課題を発表レジュメとしてまとめる。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 阪本真士・丹野義彦・安藤清志『臨床社会心理学』東京大学出版、2007年。 【参考文献】 松本卓也著『こころの病気ってなんだろう?』平凡社、2019年。 東畑開人『日本のありふれた心理療法 ローカルな日常臨床のための心理学と医療人類学』誠信書房、2017年。 適宜、必要に応じてレジュメ作成の補助となるプリントを配布します。 他の参考文献は「14.学習の展開及び内容」中にも提示しています。基本的には、教科書の各章執筆者の著作を中心に読むことを推奨します。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 上記の学習目標を達成できること。 ○評定の方法 発表レジュメ 50%、 ファイナルペーパー50%		
12. 受講生へのメッセージ	* 臨床心理士という専門家としての視野を広げるためにも、近年の社会問題を心理学的見地より把握していることは重要です。したがって、各課題に対し文献検索作業を徹底してください。 * 批評・討論の力を養うためにも、積極的に文献研究を行ってください。		
13. オフィスアワー	追って連絡いたします。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	臨床社会心理学は何をめざすか		
【学習の目標】	社会心理学・臨床心理学のインターフェイスとしての臨床社会心理学について学ぶ。		
【学習の内容】	各領域としての枠組みと臨床社会心理学の定義と目的をまとめる。		
【キーワード】	社会心理学・臨床心理学・臨床社会心理学		
【学習の課題】	臨床社会心理学に対する理解を深めるとともに、今後の課題について考える。		
【参考文献】	特に指定しない		
【学習する上での留意点】	発表レジュメは起承転結の整った小論文形式で A4 用紙 2 ページ(手書き不可)にまとめる。各講義のテーマについてまとめ、全体の考察を臨床心理士の立場より論述する。課題の題目は各自のテーマに従って最も適当な表題を付けること。また、教科書の該当部分で引用されている文献を 1~2 本引用し、内容に盛り込むこと。		
2. テーマ	臨床社会心理学の歴史と現状		
【学習の目標】	臨床社会心理学の歴史と現状について学ぶ。		
【学習の内容】	欧米における臨床社会心理学の変遷についてまとめる。		
【キーワード】	臨床社会心理学の変遷		
【学習の課題】	臨床社会心理学の発展の歴史的経緯について考える。		
【参考文献】	Kowalski, R. M. & Learly, M. R. (eds.) The social psychology of emotional and behavioral problems: Interfaces of social and clinical psychology. American Psychological Association. 1999 (安藤清志・丹野義彦 監訳『心象社会心理学の発展：実りあるインターフェイスをめざして』北大路書房、2001)		
【学習する上での留意点】	課題 1 に同様とする。		
3. テーマ	シャイネス		
【学習の目標】	対人不安や社会恐怖と関連する概念としての個人におけるシャイネスを学ぶ。		
【学習の内容】	シャイネスの心理的特徴をまとめる。		
【キーワード】	シャイネス・対人不安・形成過程・自己呈示		
【学習の課題】	シャイネスのメカニズムについて考え、その介入の在り方を考察する。		
【参考文献】	特に指定しない		
【学習する上での留意点】	課題 1 に同様とする。		
4. テーマ	自己開示		
【学習の目標】	感情体験としての自己開示について学ぶ。		
【学習の内容】	態度の定義、態度の測定、説得的コミュニケーション、態度の変容の諸理論についてまとめる。		
【キーワード】	自己開示・感情の社会的共有・感情筆記法・自己呈示		
【学習の課題】	自己開示パラダイム研究にはじまり、自己開示の今後の課題について考え、人間理解を深める。		

【参考文献】	森脇愛子『抑うつと自己開示の臨床心理学』風間書房、2005年
【学習する上での留意点】	課題1に同様とする。
5. テーマ	攻撃と怒り
【学習の目標】	攻撃と怒りのメカニズムについて学ぶ。
【学習の内容】	攻撃と怒りのメカニズムを理解しその制御の在り方についてまとめる。
【キーワード】	攻撃・怒り・制御・認知行動アプローチ・教育的介入プログラム
【学習の課題】	攻撃と怒りのメカニズムを理解しその制御の在り方や教育的介入プログラムについて考察する。
【参考文献】	荒井崇史・湯川進太郎『言語化による怒りの制御』カウンセリング研究, 39, 1-10. 2006年
【学習する上での留意点】	課題1に同様とする。
6. テーマ	ソーシャルサポート
【学習の目標】	ソーシャルサポート研究について学び、その臨床的效果について考える。
【学習の内容】	ソーシャルサポート研究の背景と概念についてまとめる。
【キーワード】	ソーシャルサポート・ストレスモデル・ストレスサー
【学習の課題】	ソーシャルサポートの特徴とその臨床的效果、将来の展望について考える。
【参考文献】	繁榊江里『ダメだしコミュニケーションの社会心理』誠信書房、2010年
【学習する上での留意点】	課題1に同様とする。
7. テーマ	ソーシャルスキル
【学習の目標】	ソーシャルスキル獲得過程について学び、その臨床的效果について考える。
【学習の内容】	ソーシャルスキルとは何か、その基礎的知見と実践についてまとめる。
【キーワード】	ソーシャルスキル
【学習の課題】	ソーシャルスキルの獲得過程について考え、そのトレーニング法を理解する。
【参考文献】	江村里奈・岡安考弘『中学校における集団社会的スキル教育の実践的研究』教育心理学研究,51,339-350. 2003年 繁榊江里『ダメだしコミュニケーションの社会心理』誠信書房、2010年
【学習する上での留意点】	課題1に同様とする。
8. テーマ	患者役割
【学習の目標】	社会的影響の諸側面のうち、同調、服従、社会的影響としての説得、他者存在の効果等を取り上げ、その現象について学ぶ。
【学習の内容】	患者役割意識の構造分析についてまとめる。
【キーワード】	患者役割・カウンセラーとクライアント
【学習の課題】	患者役割意識の構造分析について理解を深める。
【参考文献】	特に指定しない
【学習する上での留意点】	課題1に同様とする。
9. テーマ	親密な関係と離死別
【学習の目標】	親密な関係と離死別の体験について、臨床社会心理学的視野より近年の社会問題に関して学ぶ。
【学習の内容】	親密な関係と離死別の体験における心理的反応についてまとめる。
【キーワード】	密な関係と離死別・恋愛関係崩壊・離婚後の心理・死別・遺族の心理
【学習の課題】	日本の死別研究の実態と今後の課題について理解を深める。
【参考文献】	松井豊『悲嘆研究からみた心理臨床と社会心理学』ストレス研究, 19(3), 175-183. 2005年
【学習する上での留意点】	課題1に同様とする。
10. テーマ	グループワーク
【学習の目標】	人間の社会的行動のうち、援助行動、ソーシャル・サポート、対人的葛藤、攻撃行動を取り上げ、その特徴のほか、共通点、相違点について学ぶ。
【学習の内容】	援助行動の研究、ソーシャル・サポートの研究、対人葛藤、攻撃行動についてまとめる。
【キーワード】	グループワーク・グループのメカニズム・Tグループ
【学習の課題】	グループワークのメカニズムを理解するとともに、グループワーク実践の在り方について考える。
【参考文献】	特に指定しない
【学習する上での留意点】	課題1に同様とする。
11. テーマ	臨床心理学からみた臨床社会心理学-認知行動療法の実践から-
【学習の目標】	心理療法の一学派からみた社会心理学の捉え方を理解する
【学習の内容】	臨床心理学と基礎心理学の間の関連性について学ぶ。
【キーワード】	認知行動療法、基礎心理学、日常認知
【学習の課題】	臨床心理学と基礎心理学の関連を理解することの重要性を討論する。
【参考文献】	特に指定しない
【学習する上での留意点】	課題1に同様とする。
12. テーマ	臨床心理学からみた臨床社会心理学-個人から社会とのつながり-
【学習の目標】	個人が社会と繋がる上でとっている行動に目を向け、理解する
【学習の内容】	化粧行動を例に、個人の行動の背景を理解し学ぶ
【キーワード】	化粧行動、自己呈示、不適応
【学習の課題】	適応的な行動として一般化されているものの本質について討論する
【参考文献】	大坊邦夫『化粧と顔の美意識』大坊邦夫(編)「化粧行動の社会心理学」北大路書房, pp.1-9. 2001年
【学習する上での留意点】	課題1に同様とする。

13. テーマ	実践から見た臨床社会心理学-臨床心理学と社会心理学の実践的融合-
【学習の目標】	教科書の第13章について理解を深める
【学習の内容】	臨床心理学と社会心理学がいかにして双方に影響を与えているのかについてまとめる。
【キーワード】	文化的均質性、社会心理学、臨床心理学
【学習の課題】	臨床心理学および社会心理学的な視点の双方を用いて、妥当な介入方法を探る利点について考察する
【参考文献】	特に指定しない
【学習する上での留意点】	課題1に同様とする。
14. テーマ	ヘルスケア・システムから見た臨床社会心理学 part.1
【学習の目標】	教科書の第14章について理解を深める
【学習の内容】	ヘルスケア・システム理論についてまとめる。
【キーワード】	ヘルスケアシステム、医療人類学
【学習の課題】	それぞれの文化においてなされる病気への対処行動に関して考察する。
【参考文献】	東畑開人『日本のありふれた心理療法 ローカルな日常臨床のための心理学と医療人類学』誠信書房、2017年。
【学習する上での留意点】	課題1に同様とする。
15. テーマ	ヘルスケア・システムから見た臨床社会心理学 part.2
【学習の目標】	教科書の第14章について参考文献を参照し、さらに理解を深める。
【学習の内容】	ヘルスケアシステム理論と病者の対処行動選択について理解する。
【キーワード】	臨床社会心理学、心理療法、ヘルスケアシステム、医療人類学
【学習の課題】	医療人類学をベースに心理療法家としてのあり方について考察する。
【参考文献】	東畑開人『日本のありふれた心理療法 ローカルな日常臨床のための心理学と医療人類学』誠信書房、2017年。
【学習する上での留意点】	課題1に同様とする。